

第1学年〇組 英語科学習指導案

福岡市立〇〇中学校

指導者 〇〇 〇〇

ALT 〇〇〇〇〇

1 単元 Sunshine English Course 1 Program4 キャンプの準備

2 指導観

- 平成 23 年度より完全実施される新学習指導要領では、小学校高学年で外国語学習が導入され、音声面を中心とした英語のコミュニケーション能力の素地が育成されることになった。これに伴い、中学校の英語教師は、生徒の英語学習に対するレディネスの把握、小中連携の系統的指導、またその在り方等の指導内容の改善が求められることになった。小学校で育まれた素地の上に、「読むこと」及び「書くこと」を加えた 4 技能をどのようにバランスよく指導していくかが重要な課題となっている。

本単元は、キャンプの打ち合わせを楽しそうに行う様子が描かれており、生徒にとっては身近な話題であるので、興味をもって取り組める内容である。ここで学習する言語材料は、名詞の複数形、それに対応した数の尋ね方 “How many～?”, 人物を尋ねる表現 “Who～?” である。複数形は定着しにくいので、s の付け方やその発音のちがいに留意させながら、言語活動の中で何度も使用して慣れさせることが必要である。“How many～?” や “Who～?” の疑問文を学ぶことにより、会話が広がり、内容に深みを持たせることができる。それにより生徒がコミュニケーション活動を少しでも楽しむことが期待される。

- 本学級の生徒は、34名（女子16名、男子18名）である。授業では、積極的に発表する生徒が多く、目標達成のためにほとんどの生徒が意欲的に取り組もうとしている。英語学習に対する意識調査では、『英語は将来役にたつ』（76%）、『英語を話せるようになりたい』（88%）、『英語学習を積極的にがんばっている』（73%）という結果が得られた。一方、1学期末の期末考査における観点別の正答率は、表現の能力（主に英作文に関する問題）が最も低く 55%、次いで言語や文化についての知識・理解（主に単語の書き取りや英文法に関する問題）が 60%、理解の能力（主にリスニングテスト）が最も高く 90%であった。

このことから、意欲面においては、小学校からの外国語活動の取り組みの成果

が十分に現れており、更に中学校に入学してからは「聞くこと」「話すこと」においても、積極的にコミュニケーションをはかろうとする態度を見取ることができる。しかし、「書くこと」においては、英文法のルールに注意して正しく書くことや、単語の綴りをまちがえずに書くことなどが課題である。

- 指導にあたっては、指導計画7時間を全て、ALT とのチームティーチングとし、生徒の英語学習への意欲をさらに高めたい。まず、Warm-up では、基本表現の「べらべらイングリッシュ」を行う。次に、新出文型の学習では、視覚教材を使って、ALT との会話で新出文型を導入し、生徒に意味を推測させる。新出文型の練習は、ALT とのインタビューやインフォメーションギャップなどを使ったゲームでのコミュニケーション活動を中心とする。さらに、活動直後には自由英作文に取り組みせ、「書く力」の定着を図る。本文の学習では、内容理解をALT とのQ&Aで行う。この際、ALT に自国におけるキャンプについて話してもらい、異文化理解を深めさせる。また、表現の力を見るために、セクションごとに役割分担をした読みのテストを行う。特に、複数形は発音のちがいに注意させる。課題である単語の定着に関しては、セクションごとに英単語の小テストを行い、やり直しを徹底させる。最後に、発展学習として教師自作のリーディング教材に取り組みせ、英文を読み取る力をつけることにも配慮する。

なお、活動の振り返りとして、チャレンジカードを活用し、授業への積極的な取り組みの一助とする。

3 目標

コミュニケーションの関心・意欲・態度	・“Who am I?”クイズを通して、積極的に英語を使って伝えようとする。
表現の能力	・複数形や“How many~?”“Who~?”を用いた疑問文を使って、尋ねたり、答えたりすることができる。
理解の能力	・複数形や“How many~?”“Who~?”を用いた質問内容が理解できる。
語彙・文化についての知識・理解	・複数形の使い方についての知識があり、“How many~?”“Who~?”を用いた表現を理解している。

4 指導計画（7時間）

配時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準 (評価の方法)	評価基準 (関心・意欲, 表現, 理解, 言語・文化)		Cと判断される 生徒への手だて
				A	B	
2	<p>数や人物について, 尋ねたり, 相手に伝えたりしよう</p> <p>§1の基本文(複数形)を理解し, それを用いて表現活動をする。 ・写真を見て, 数の情報を相手に伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの例文を提示することで複数形に慣れさせる。 ・複数形の正しい発音を習得させるためにALTとくり返し練習させる。 	<p>関: ペアワークやグループワークに意欲的に取り組もうとしている。〈様相チェック〉</p> <p>表: 身の回りの物について, 複数形を用いて言うことができる。〈活動状況チェック, ワークシート分析〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複数形を用いて, 身の回りの必要な情報を, 相手に的確に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例文を参考に複数形を使って, 身の回りの物について, 英語で表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例文をたくさん提示し, 複数形を正しく発音できるよう指導する。
	<p>§1の新出単語, 教科書の本文を理解し, 本文の読みを練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内容理解へのヒントになるよう, ALTによる本文に関するQ&Aを行う。 	<p>関: 積極的に質問に答えようとしている。〈様相チェック〉</p> <p>理: 教科書の本文の内容を理解できる。〈ノート分析〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の大切な部分に加え, 細かい部分まで正確に読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードや絵を参考にし, 内容の大切な部分を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や友だちの発表などを参考にしながら, ノートやワークシートへ記入するよう援助する。
2	<p>§2の基本文を理解し, それを用いて表現活動をする。 ・ALTや友だちと, 持ち物について尋ね合うコミュニケーション活動を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・How many ~?の疑問文の用法と答え方を正しく理解させる。 	<p>関: ペアワークやグループワークに意欲的に取り組もうとしている。〈様相チェック〉</p> <p>表: 数の尋ね方, 答え方の表現を用いて, キャンプの持ち物を集めることができる。〈活動状況チェック, ワークシート分析〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・How many ~?の文を用いた疑問文やその答えを考え, 言ったり書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・How many ~?の文を見ながら, 言ったり書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの助け合い学習により, 例文を中心とした英文を言ったり, 書いたりするよう指導する。
	<p>§2の新出単語, 教科書の本文を理解し, 本文の読みを練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内容理解へのヒントになるよう, ALTによる本文に関するQ&Aを行う。 	<p>関: 積極的に質問に答えようとしている。〈様相チェック〉</p> <p>理: 教科書の本文の内容を理解できる。〈ノート分析〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の大切な部分に加え, 細かい部分まで正確に読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードや絵を参考にし, 内容の大切な部分を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や友だちの発表などを参考にしながら, ノートやワークシートへ記入するよう援助する。
1	<p>§3の基本文を理解し, それを用いて表現活動をする。 ・Who ~?の文を用いて, ALTから情報を聞き出す活動を行う。 ・アメリカのキャンプに関するALTの話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Who ~?の疑問文の用法と答え方を正しく理解させる。 	<p>関: ペアワークやグループワークに意欲的に取り組もうとしている。〈様相チェック〉</p> <p>表: 人物について尋ねたり答えたりできる。〈活動状況チェック, ワークシート分析〉</p> <p>言: アメリカでのキャンプの特徴を説明することができる。〈ワークシート分析〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Who ~?の文を用いた疑問文やその答えを考え, 言ったり書いたりすることができる。 ・ALTの話から日米間の相異に気づき, 意見を述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Who ~?の文を, ワークシートなどを見ながら, 言ったり書いたりすることができる。 ・ALTの話聞き, 学んだことをワークシートに記入している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの助け合い学習により, 例文を中心とした英文を言ったり書いたりするよう指導する。 ・キーワードを提示し, ALTの話最後まで聞けるよう援助する。
1	<p>“Who am I?”のクイズを班ごとに発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協力してグループワークができる雰囲気を作る。 	<p>関: ペアワークやグループワークに意欲的に取り組もうとしている。〈様相チェック〉</p> <p>表: 相手にきちんと伝わるように人物の説明ができる。〈発表チェック, ワークシートチェック〉</p> <p>理: 他のグループの説明を聞いて, 理解できる。〈ワークシート分析〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な文と明確な発音で, 相手に伝わるように発表できる。 ・他のグループの発表を聞いてほとんど理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で相手に伝わるように発表できる。 ・他のグループの発表を聞いて, 答えを導き出せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発音のポイントを教え, 相手に伝わる発表ができるように指導する。 ・答えを推測させるようなキーワードを聞きとらせる。
1	<p>§3の新出単語, 教科書の本文を理解し, 本文の読みを練習する。 ・読み取り問題に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内容理解へのヒントになるよう, ALTによる本文に関するQ&Aを行う。 	<p>関: 積極的に質問に答えようとしている。〈様相チェック〉</p> <p>理: 教科書の本文の内容を理解できる。〈ノート分析〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の大切な部分に加え, 細かい部分まで正確に読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードや絵を参考にし, 内容の大切な部分を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や友だちの発表などを参考にしながら, ノートやワークシートへ記入するよう援助する。

5 本時 平成21年10月7日(水曜日) 第5校時 場所1年〇組 教室

(1) 本時の主眼

- ・班で協力して、クイズ作りや発表に意欲的に取り組もうとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・既習事項を活用して、人物の説明ができ、他のグループの発表を聞いて理解できる。(表現の能力、理解の能力)

(2) 本時の指導観

前時までに生徒は、“Who is ~?”の疑問文を学習している。また、人物を説明するのに必要になる単語も学習している。

本時では、“Who am I?”クイズを通して、人物についての説明文を作ることと、説明文を聞いて内容を理解することをねらいとする。まず Warm-up では、「べらべらイングリッシュ」と“Who is ~?”の復習を行う。次に、班ごとにクイズ作りに取り組ませる。この際、活動に取り組みやすいように例文を提示する。JTE と ALT は、各班が協力しながら活動しているかを確認すると同時に、必要に応じて活動を支援する。発表の際には、発表のルールと評価の観点を説明し、生徒の意欲を喚起する。さらに、他の班の発表は、聞き取れた内容をワークシート(評価表)に記入させ、授業後に理解の度合いを分析する。最後に、ALT に各班の発表を評価してもらった後、チャレンジカードへの記入を指示する。これらを通して、授業の振り返りをさせるとともに、今後の英語活動への意欲につなげる。

次時は、§3の本文の内容を学習し、発展学習として読み物教材に取り組ませる。

(3) 準備 ①ワークシート ②ワークシート(評価表) ③得点表 ④アンサーシート ⑤チャレンジカード(活動記録表)

6 過程

学習活動・内容	資料用具	指導上の留意点	形態	配時	評価規準 (評価の方法)	評価基準		C と判断される生徒への手だて
						A	B	
人物について、適切に説明するクイズを作ろう。								
1 あいさつ		・アイコンタクトと大きな声を大事にしながらいさつさせる。	一斉	2				
2 Warm-up ・べらべらイングリッシュに取り組む。		・活動が円滑に行われているか確認するため机間指導をする。 ・ALT は時間を計り、英語で生徒に伝える。	ペア	5				
3 本時のめあての確認		・一斉に読ませる。	一斉	1				
4 クイズ作り ・例を参考に、班ごとにクイズを作る。 ・発表するときの分担を決める。	①	・ALT とともに、机間指導を行いながら、生徒の質問等に答える。	班	20	関:グループで協力して、意欲的にクイズ作りや発表に取り組もうとしている。 (様相チェック)			
5 クイズの発表 ・“Who am I?”クイズの例を提示する。 ・班で協力して、クイズの発表を行う。 ・各班が誰について発表したのか、英文を聞き取り、答えをワークシート(評価表)に記入する。 ・ALT の評価を聞く。	② ③ ④	・発表するときの注意点を確認させる。	班	18	表:相手に伝わるように、人物の説明ができる。 (発表チェック, ワークシート分析)	・正確な文と明確な発音で、相手に伝わるように発表できる。	・大きな声で相手に伝わるように発表できる。	・発音のポイントを教え、相手に伝わる発表ができるよう指導する。
6 本時のまとめ ・“Who am I?”を確認する。 ・本時の学習の振り返りをする。	⑤	・ALT の評価を聞いて、班ごとにふり返りをさせる。 ・クイズ作りのテーマ“Who am I?”を確認する。 ・チャレンジカードへの記入を指示する。	一斉	3	理:他のグループの説明を聞いて、理解できる。 (発表チェック, ワークシート分析)	・他のグループの発表を聞いてほとんど理解できる。	・他のグループの発表を聞いて、キーワードから答えを導き出せる。	・答えを推測させるようなキーワードを聞きとらせる。
7 次時の予告とあいさつ			一斉	1				

Program4-3

Who am I?クイズ・評価シート

聞き取れた内容を英語または日本語でメモしましょう。

1. 班名 ()

ヒントの内容 (英語でも日本語でもよい)	答 え

2. 班名 ()

ヒントの内容 (英語でも日本語でもよい)	答 え

3. 班名 ()

ヒントの内容 (英語でも日本語でもよい)	答 え

Class

Number

Name

4. 班名 ()

ヒントの内容 (英語でも日本語でもよい)	答 え

5. 班名 ()

ヒントの内容 (英語でも日本語でもよい)	答 え

自分の班 ()

評価の観点	評価の基準	得点
①文の正確さ	2点：全員の英文が全て正しい 1点：間違いがある 0点：ほとんど間違っている	
②声の大きさ	2点：全員「十分大きい」 1点：「まあ聞こえる」 0点：全体的に小さい	
③発音・イントネーション	2点：全員正確である 1点：間違いがある 0点：ほとんど間違っている	
④チームワーク	2点：全員で協力できている 1点：協力していない人がいる 0点：全員協力していない	
⑤英文の数	2点：6文 1点：5文 0点：4文以下	
		合計

()

評価の観点	評価の基準	得点
①文の正確さ	2点：全員の英文が全て正しい 1点：間違いがある 0点：ほとんど間違っている	
②声の大きさ	2点：全員「十分大きい」 1点：「まあ聞こえる」 0点：全体的に小さい	
③発音・ イントネーション	2点：全員正確である 1点：間違いがある 0点：ほとんど間違っている	
④チームワーク	2点：全員で協力できている 1点：協力していない人がいる 0点：全員協力していない	
⑤英文の数	2点：6文 1点：5文 0点：4文以下	
	合計	

()

評価の観点	評価の基準	得点
①文の正確さ	2点：全員の英文が全て正しい 1点：間違いがある 0点：ほとんど間違っている	
②声の大きさ	2点：全員「十分大きい」 1点：「まあ聞こえる」 0点：全体的に小さい	
③発音・ イントネーション	2点：全員正確である 1点：間違いがある 0点：ほとんど間違っている	
④チームワーク	2点：全員で協力できている 1点：協力していない人がいる 0点：全員協力していない	
⑤英文の数	2点：6文 1点：5文 0点：4文以下	
	合計	

()

評価の観点	評価の基準	得点
①文の正確さ	2点：全員の英文が全て正しい 1点：間違いがある 0点：ほとんど間違っている	
②声の大きさ	2点：全員「十分大きい」 1点：「まあ聞こえる」 0点：全体的に小さい	
③発音・ イントネーション	2点：全員正確である 1点：間違いがある 0点：ほとんど間違っている	
④チームワーク	2点：全員で協力できている 1点：協力していない人がいる 0点：全員協力していない	
⑤英文の数	2点：6文 1点：5文 0点：4文以下	
	合計	

()

評価の観点	評価の基準	得点
①文の正確さ	2点：全員の英文が全て正しい 1点：間違いがある 0点：ほとんど間違っている	
②声の大きさ	2点：全員「十分大きい」 1点：「まあ聞こえる」 0点：全体的に小さい	
③発音・ イントネーション	2点：全員正確である 1点：間違いがある 0点：ほとんど間違っている	
④チームワーク	2点：全員で協力できている 1点：協力していない人がいる 0点：全員協力していない	
⑤英文の数	2点：6文 1点：5文 0点：4文以下	
	合計	

()

評価の観点	評価の基準	得点
①文の正確さ	2点：全員の英文が全て正しい 1点：間違いがある 0点：ほとんど間違っている	
②声の大きさ	2点：全員「十分大きい」 1点：「まあ聞こえる」 0点：全体的に小さい	
③発音・ イントネーション	2点：全員正確である 1点：間違いがある 0点：ほとんど間違っている	
④チームワーク	2点：全員で協力できている 1点：協力していない人がいる 0点：全員協力していない	
⑤英文の数	2点：6文 1点：5文 0点：4文以下	
	合計	

()

評価の観点	評価の基準	得点
①文の正確さ	2点：全員の英文が全て正しい 1点：間違いがある 0点：ほとんど間違っている	
②声の大きさ	2点：全員「十分大きい」 1点：「まあ聞こえる」 0点：全体的に小さい	
③発音・ イントネーション	2点：全員正確である 1点：間違いがある 0点：ほとんど間違っている	
④チームワーク	2点：全員で協力できている 1点：協力していない人がいる 0点：全員協力していない	
⑤英文の数	2点：6文 1点：5文 0点：4文以下	
	合計	